

No.1 「ホストファミリー体験記2016」 青木ファミリー
SPCC 生徒名：Bailey Pretti

ポートスティーブンス市の生徒の受け入れは今回の Bailey で 2 人目で、家族みんなで楽しみにしておりました。

Bailey はとても明るく、みんなのムードメーカーのような存在で、我が家を明るくしてくれました。また食事は心配することなく、なんでも美味しく食べてくれて、とても助かりました。

肝心の日本語があまり理解出来なかった為、最初は Bailey は英語で娘に、娘から私に日本語に訳してもらうというスタイルでした。

それが、だんだん日本語を理解しようという気持ちが表れてきて、わかっているんだと思った事も随分増えました。

今回は日程的に家族で遊びに行くことも出来なかったもので、少し残念でしたが、Bailey は次回必ずディズニーランドに行こうね！と言って京都に旅立ちました。

2 年前に初めて受け入れをした時から、オーストラリアに新しい息子が出来た気分で、成長を楽しみにしています。今回ももう一人息子が増えた感じです。この姉妹都市の交換留学経験をさせて頂いた事により、現在娘の高校留学のきっかけになった事をとても感謝しています。

No.2 「ホストファミリー体験記2016」 石井ファミリー
Port Stephens 市訪問団受け入れ者名：Olivia Martin

今回、ホストファミリーをさせていただきましたが、ホームステイを受け入れようと思っている方のハードルが少しでも低くなればと思い、感想などを書きました。

○はじめに（ポートスチーブンスとの交流をどれくらい知っていたか）

私たちの家族にとって、ポートスチーブンスとは、湯河原町との交流で相互に訪問し合っている外国の町という程度しか知らず、娘を交流事業に選んでいただくまでは、うちがホストファミリーになるとは夢にも考えていませんでした。

○ホストファミリーになろうとした理由

娘の出発が近づくと、私たち家族のオーストラリアへの関心も高まり、コアラやカンガルーの話などをするようになりました。（高まったと言ってもこの程度のことですが・・・）その頃、ホームステイ先であるマーティン家ともメールでの交流が始まり、マーティン家のオリビアが9月に湯河原へ来ることを知りました。

その後、娘がオーストラリア訪問を終え帰国した頃には、娘との交流の様子などを聞き、マーティン家の皆さんへの感謝の気持ちから「オリビアをホームステイさせたい！」と気持ちが変わっていました。

○ホームステイの受入れ準備

協会の皆様のご配慮で、オリビアのホストファミリーになれました。娘から「すごくおとなしい子」というような話を聞くうちに、娘の友だちが遊びに来るような感覚になり、受入れるハードルは低くなっていました。恐らくオリビアも同じで、初日からワイワイできると思いました。

しかし、一番の不安は言葉の壁です。家族の誰も満足に英語を話せない状態で、無謀なことをしているのではと弱気になったときに、協会の方からの「日本語の勉強に来るのだから日本語を使えばいい」という説明に救われ、言葉の準備を諦めました。

(開き直ることができました)

オリビアに使ってもらうベッドはなかったので「日本を体験してもらうのだから布団でいい」と考え、和室を用意しました。(家中片づけて一部屋を確保することが一番大変だったかもしれません)

準備万端と言いたいところですが、何から何まで初めてのことばかりで、数日前からは、不安と期待が入り混じり、そわそわドキドキとしながら当日を待ちました。

○オリビア到着

いよいよ当日、湯河原駅で出迎えた際に、オリビアがこちらに手を振りながら改札を出た時には感動し、これからの一週間が楽しみになりました。

○食事・・・

日本食が好きだというオリビアに、刺身、みそ汁など、普段食べている日本食の食事計画をたてました。

特に、2日目の夜にたこ焼きづくりにチャレンジ。不思議そうに櫛を上手に使いながらたこやきを焼き上げていました。しかし、たこを食べる文化がないオリビアは食べられず、結局、具材をウインナーなどに変え、たこなし“たこやき”を食べました。さしみ、醤油、温泉たまご、お饅頭などは大丈夫でしたが、のりやお茶が少々苦手で、納豆、たこは無理でした。飲み物はミネラルウォーターかオレンジジュース。アイスは何でも完食でした。

○生活のリズムの違い

オリビアは就寝時間が早く、食事後21時には就寝していました。初日の疲れ方がひどく、緊張も加わり、3日目くらいまでは、夕食時には眠そうで食べる量も少なく心配したほどです。

お風呂は、浴槽にはお湯をためず、朝、シャワーを浴びるため、毎朝かなり忙しなかったです。

○失敗談

2日目の朝、オリビアはシャワーを浴びました。この朝は少し寒かったので、なかなか浴室から出で来ないことにも疑問を持たず、「シャワー長いね」などと話していたら、湯沸かし器のスイッチが入ってないことに気づいて大騒ぎ。長い髪を水で洗いどんなに寒かったことか。シャイで何も言うことができなかつたのかと思うと余計に切なくなり、同じようなことがあった時には言ってもらえるようになろう！！と心に誓いました。水しか出ないシャワーを使い、日本のことをどう思ったかは不明です。怖くて聞けませんでした。

3日後の暑い夜、冷房のリモコンの使い方がわからないと聞いてくれたときにはとても嬉しかったです。

○さいごに

オリビアの滞在は5、5日ほどで、そのうち一緒に過ごしたのは毎日3時間ほどでした。予想以上に話をする時間や一緒に行動する時間がなく、もう少しだけ一緒に行動する時間がほしかったなと思っています。

話す時間があまりなかったので、見送りの時までオリビアが楽しめたのかどうか自信が持てませんでした。しかし、駅でサヨナラを言ったとき、オリビアが泣き崩れたのを見て、こちらの気持ちが伝わっていたことがわかり、とても嬉しくなりました。その場面まで、オリビアの気持ちに確信が持てなかったという、オリビアに申し訳ないですが、それが思っていた以上に通じなかった言葉の壁だったように思います。家に帰って布団を片付けると、枕元に「お世話になりました See You Again・・・」というメッセージが残されていました。何度も書き直した日本語の「お世話になりました」に再び感激しました。

今回、ホストファミリーを経験して本当に良かったのは、コアラやカンガルーだけでなく食文化や歴史、生活などに対しても、オーストラリアに対する関心が高まり、オーストラリアが好きになったこと。何よりオーストラリアにオリビアという家族のような存在ができ、一度でいいから家族で、ポートスチーブンスのオリビア一家を訪れたいという夢が持てたことです。

私たちの家族にとっては、ホストファミリーになることは、学校との両立や仕事との調整など、とても大変なことでしたが、それ以上に素敵な経験を得ることができる機会だということもわかりました。

素敵な経験をさせていただき、ありがとうございました。心から感謝しています。

No.3「ホストファミリー体験記 2016」 両角ファミリー

SPCC 生徒：Aidan Flinn

今回は、私たちファミリーにとって2度目のポートスチーブンスの生徒の受け入れでした。

何回目でも、事前打ち合わせ時にプロフィールを頂いて、「さて、どんな子だろう？一緒に何をしたら楽しんでもらえるだろう？」と考える時からドキドキします。

私たちがお迎えしたのは中学2年生のAidan君！

我が家には中学3年生の息子、2年生の娘、そして一番下の小学5年生の息子がいます。

中学生はちょっと恥ずかしいお年頃で、英語も頑張っちゃべらなきゃという意識がかえって邪魔をするようですが、意外とお気楽な末息子がムードメーカーとなってくれました。

プロフィールの趣味欄にゲームとあったのに目を付け、到着初日から、床に自分のゲ

ームソフトを並べて「どれにする？」と。それから連日、会話に困ってくると、4人でゲームが始まり…日本にまで来て、ゲームか！と思うところもありますが、それでも楽しそうに盛り上がっているところを見るとそれもありなのかなと思ってしまいました。

今回の日程では、1日家族と過ごす家庭の日がなかったので色々な事は出来なかったのですが、海が見たいというので一緒に犬の散歩で、海浜公園から吉浜海岸まで散歩したり、回転寿司を食べに行ったりとても普通のことを楽しみました。

私が一番嬉しかったのは、Aidan君が学校から帰って来て「あ～、疲れた」とソファーに寝転んで携帯片手に本当にくつろぐ姿を見た時です。うちの子とまるで一緒。それだけ、打ち解けてくれているんだと思うと今回のホストも大成功かと自負しています。

No.4 「ホストファミリー体験記 2016」 木村 陽一ファミリー

娘がオーストラリアにホームテイに行ってから既に14年経ちました。良い体験をさせて頂いたのでいつか受け入れしようと思い今年、受け入れを志願しました。

英語での会話ができず携帯アプリを利用してコミュニケーションを図ろうと考えていましたが、驚いたことに受け入れたのは日本語の上手な先生でした。

最初の印象はとても大きくて強面な人だな、と思いました。実際話して見ると、明るく日本語で会話をしてくれる日本が大好きな優しい人でした。

スティーブンのいる一週間は、彼の話し好きなお蔭で毎日にぎやかに過ごすことができ、対話の中で彼は、生徒一人一人を大切に思っていていつも気にかけているのがうかがえました。

また、ユーモアな人で、吸血鬼の牙を付けて生徒に一瞬見せて脅かせて楽しむ話を聞きました。

一番の心配は食事面でした。「プロフィールには好き嫌い無し」と書いてありましたが、出会った途端、「豚肉は食べれない」と言われました。ホームステイ中に豚肉料理を何品か用意しようと思っていたので残念でしたし、初日の夕食にも豚肉料理を考えていたため慌てて別メニューを出すハプニングがありました。

大柄なスティーブン（グラント先生）は、どのくらいの量食べれるか心配でしたがごはん好きでよく食べ、おかわりし満腹になっていたようです。

我が家は和食が中心ですが、時々たま出すスイーツやお酒も大好きで喜んでもらえました。驚いたのは家内が作ったケーキを食後に1/4個ペロリと完食したことです。喜んで食べてくれた事がうれしかったです。

休日に娘が帰省し、スティーブンと直ぐに仲良くなり色々話をしていました。

娘はすっかり気に入って出発前日にまた、会いに戻って来てくれました。何よりも嬉しかった事は英語が苦手だった娘が「やる気スイッチ」が入った事です。先生凄～い。

慌ただしい1週間でしたが楽しい思い出をありがとうございました。